

令和7年度 施設関係者評価

評価基準（A：よくできている B：概ねできている C：あまりできていない D：できていない）

大項目	中項目	評価指標	園説明	自己評価	施設関係者評価	施設関係者評価者から	改善策（来年度に向けて）
1 教育・保育目標	(1)心身ともに健康で元気に遊ぶ子ども	やりたいことに向かって心と体を十分に働かせているか	○園庭を乳児園庭、幼児園庭に区分けしており、安全な環境で元気に遊んでいる。 ○幼児は、委託した講師の指導を受けて、体育・英語・絵画等を楽しんでいる。 ○保育者が見守る中、屋内外それぞれの環境の中で様々な体験を積み、自律的・意欲的に活動をしている。	A	A	○体育講師が年齢に合わせた活動を丁寧に指導してくれている。園児も楽しく遊んでいる様子が見えた。 ○保育者が複数の目で園児を見ることができ、安全に遊んでいる。 ○色々な子どもがいるが、一人一人に寄り添って保育している様子が見えた。	○講師による指導を参考に、子どもがより楽しく遊べる環境を作っていく。
	(2)心豊かで思いやりのある子ども	様々な人と関わりを持ち、自分の思いや要求を言葉や態度で安心して表現しているか	○毎月1回の異年齢児交流により、小学生と園児との交流ができた。回数を重ねる毎に安心感が増している。 ○相手の気持ちを考えることの重要性や、様々な機会を通じて協力し助け合うことの重要性を伝えている。 ○遊びの中で、ルールを守りながら楽しく過ごすことができる。	B	B	○行事を通じて1つの事をやり遂げる達成感を得ていると感じる。専門の講師を活用することで、よりよい行事になっている。	○様々な行事を通じて地域やお年寄りとの交流を活発に行い、思いやりの気持ちを持てるようにする。
	(3)自分で考え行動する子ども	○身近な環境に主体的に関り、活動を楽しんでいるか ○あきらめずにやり遂げようとしているか ○自信をもって行動しているか	○遊びや活動の場面で、自分でやりたいことを選び集中して取り組むことができるよう環境を整えている。 ○1つの事をやり遂げる達成感を味わうことが出来るように保育者が援助し、発表会や作品展等を通して自信を持つ機会を多くしている。	A	A		
2 安全管理・指導	事故防止・防災	○定期的に安全点検や避難訓練等の危機管理意識を持ち、全職員が安全な対応をとれるよう努めているか ○出欠管理、人数確認の徹底がなされているか	○毎日の遊具点検、毎月の避難訓練、園内研修等により防犯・防災研修、交通安全指導等を行っている。また、園児には、紙芝居や絵本、素話を媒介として、年齢に応じた防災教育を行っている。 ○アレルギーの誤飲・誤食を避ける為、保育者と給食職員で連携をとり、アレルギーと普通食の区別がつきやすいようにおぼんの色を変える等の工夫をしている。 ○出欠管理システムで、出欠確認、人数確認を適切に行っている。また、連絡なく出席していない園児には、電話で確認をしている。 ○不適切な保育がないよう研修を行い、管理職の保育室への巡回を行っている。また、職員の事務作業の負担軽減のため業務の見直し、ICT化をした。休暇取得の促進等の働き方改革を行っている。	A	B	○事故防止・防災マニュアルも整備されている。職員への周知が難しく、分かりやすくする必要がある。 ○アレルギー対応は、これから事故なく対応して頂きたい。 ○園庭から園内に入る時などに人数を確認している様子が見られた。決まっていることを確実に正しい事故のないようにして頂きたい。 ○不適切な保育が発生することがないよう、研修等できることを確認に行っている。	○事故防止・防災マニュアルを見やすく、活用しやすい形を工夫していく。 ○出欠管理システムの導入により、登降園の把握がしやすくなった。慣れにより、人為的なミスがないように気を付けていく。 ○不適切な保育が起らないよう、職員の意識を統一する。
3 保健管理・指導	健康管理	○健康管理指導を行っているか ○園児への健康教育を行っているか	○看護師が、園内で流行している病気を把握し、その対策指導や保護者に対する情報提供を行っている。 ○園医による健康診断、看護師による与薬、視診検検温を行っている。 ○園児には、絵本等を使い分かりやすく手洗いやうがいの重要性を伝えている。	A	A	○看護師が、ケガの手当や病気のとりまとめや情報発信に対応している。 ○感染症対策として手洗い等を丁寧に指導している様子が見えた。	○看護師が不在の時の対応を頼らないよう、様々な場面を想定しておく。
4 特別保育	子育て支援	保護者が子育ての喜びを感じられるように支援できているか	○地域子育て支援拠点事業は、ウォーターサーバーを設置し、利便性の向上を図った。 ○母子の孤立が問題となる中、伴走型相談支援業務の戸別訪問事業等の拠点事業の重要性はさらに増していくので、引き続き子育て支援をしていく。 ○公認心理士、助産師等の専門性を持った方に来ていただき、保護者の疑問や不安に対応することができた。	A	A	○子育て支援は、地域の子育て世帯が集まり、交流できる貴重な場所である。色々な取組を行い親子が来やすい環境を作っている。 ○伴走型相談支援も軌道に乗り、いい制度として行われていると分かった。	○支援センターを利用しやすいよう、情報発信や環境作りをしていく。 ○伴走型支援は慣れから、事故等が起らないよう気を付ける。
5 組織運営	組織体制の充実	チーム保育を行い、情報を互いに共有し合い、子ども理解や保育の進め方について周知、連携しているか	○各クラスに必要な職員以上の職員を配置し、安全に配慮している。 ○職員が定期的に研修を受け、保育の質を高め日々保育に生かしている。	A	A	職員会議や昼礼等を通じ、情報共有ができていたと感じた。今後も職員間の連携を高めて頂きたい。	職員会議や昼礼での情報共有の他にICTを活用して情報共有を推進する。
6 研修	研修体制の充実	内外の研修後、自分の保育に活かしているか	○研修の内容が偏らないよう配慮し、様々な研修を受講できている。 ○研修に参加できるよう、必要職員以上の職員を配置している。	B	B	研修は受けるだけでなく、職場に還元することが大事と理解していると感じた。	研修の受講により、保育の現場が困らないようにバランスを取りながら、計画的に研修を受けていく。
7 教育・保育環境整備	教育・保育環境の充実	子どもの興味関心に寄り添いながら、自ら「やりたい」と主体的に活動できる環境を作っているか	○園庭や園舎内の安全管理を徹底し、子どもが様々なことに興味を持ち楽しめる環境を作っている。 ○本の種類や数を多く配置し、興味のある本をすぐ手に取れる環境づくりをした。本の更新や見直しをすることができた。また、遊具や玩具の手入れや整備を行った。 ○緑が多い園庭や地域資源を活用し、自然体験や地域交流を通じて豊かな学びを促している。	A	A	○図書室、各クラスに絵本がおかれており、絵本に触れ合う環境が整備されている。 ○園の周りには緑がたくさんあるので、これからもこの資源を生かして活動していただきたい。	毎年、決まった環境を作るのではなく、改善しながらより良い環境を整備していく。
8 家庭との連携・協力	家庭教育への支援機能の充実	遊びや生活の様子の情報発信を行い、子どもの成長の喜びを共有できる環境作りに努めているか	○園児の普段の生活を動画配信することで、子どもの成長の喜びをより分かりやすく、共有することができている。 ○SNSの発信を増やした。 ○送迎の際、日々の生活の様子を保護者に伝え対面で共有も行った。 ○希望による保護者への個人面談は、引き続き丁寧に行った。	B	B	親との面談だけでなく、日々の普段の様子を分かりやすく伝えるために、SNSに力を入れる等、工夫している。	○これからも保護者との面談を積極的に行っていく。 ○家庭との連携・協力の重要性を再認識し、丁寧に対応する。
9 近隣の学校との連携	近隣の学校との連携の推進	近隣の学校との交流の場を作り、親しみを持って交流できる場や機会を持っているか	○8月の異年齢児交流で、近隣の小学生と交流の場を持つことができた。 ○小学校の先生に公開保育へ参加して頂き、園での様子を見ていただいた。小学校での生活で気になる点も共有することができた。 ○近隣小学校の公開授業に年長児クラスの保育教諭が参加した。小学校での生活の様子を確認したことで、小学校への接続を見通す生活を意識することができた。	A	A	○近隣の小学校との交流が活発になり、連携が推進されていることを確認した。 ○毎年、公開保育に小学校の教諭が参加してくれている。いい情報交換の場になっており、子どもにとっていいことだと感じた。	○以前より、小学校との連携が強化されていると感じる。これからも積極的に連携をしていく。
10 地域との連携	信頼される園づくりの推進	地域の方との触れ合いの場を作り、親しみを持って交流できる場や機会を作っているか	○園の方針や取り組みを保護者や地域の皆様に丁寧に説明した。高齢化している地域への情報発信の難しさも感じる。 ○防災訓練に地域の方も参加していただき、有事の際にお互いであることや知っておいてもらいたいこと等を共有できた。 ○地域の方やお年寄り等と交流の機会を積極的に設けた。地域の方や園児の祖父母に行事を観覧して頂いたりすることができた。 ○地域のボランティアグループには、散歩、ミカン狩り、竹の子狩り等にご協力頂き交流することができた。	A	A	○地域のボランティアグループに大変お世話になっており、いい交流ができている。 ○防災訓練にも地域の方が参加していただき、様々な交流の場が見えた。	○地域の方や祖父母が観覧できる行事を継続して行っていく。 ○地域のボランティアグループの協力を感謝し、いい関係を継続していく。